

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市廃棄物減量等推進審議会				
事務局 (担当課)		廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)				
開催日時		令和 5 年 6 月 9 日 (金) 1 5 時 0 0 分 ~ 1 6 時 4 5 分				
開催場所		総合学習センター 2 階 セミナールーム				
出席者	委員	1 3 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 7 人 (脱炭素社会・資源循環推進担当部長、廃棄物政策課長 他 1 5 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由						
議 題		1 開会 2 議題 (1) 第 3 次相模原市一般廃棄物処理基本計画の改定について 3 報告 (1) 廃棄物減量等推進員を対象としたごみの減量化・資源化に関するアンケート調査の結果について 4 その他 5 閉会				

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数の確認の上、開会した。

2 議題

竹田会長の進行により議事が進められた。

(1) 第 3 次相模原市一般廃棄物処理基本計画の改定について

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(篠原委員) 1 ページ「1 生ごみ・食品ロスの削減」について、令和元年度から令和 3 年度までで 4 8 5 台の生ごみ処理容器の助成を行ったとあるが、区別の台数について伺いたい。

(事 務 局) 数字を持ちあわせていないので、後ほど回答する。

(回答は以下のとおり)

4 8 5 台の区別内訳は緑区 1 2 8 台、中央区 1 4 0 台、南区 2 1 7 台。

(篠原委員) 2 ページ「5 4 R に関する情報発信や環境教育の推進」で、「ごみと資源の日程・出し方」の外国語版を配布したとあるが、言語は。

(事 務 局) 英語、中国語、韓国語、タガログ語、スペイン語の 5 言語である。なお、ホームページでは、クメール語、タイ語、ベトナム語にも対応している。

(篠原委員) 3 ページ「2 ごみの資源化の拡大」で、学校給食の残さの資源化とあるが、具体的にどのように資源化したのか。

(事 務 局) 学校給食の調理過程で発生した野菜くずや食べ残しを、専用の容器で回収後、処理施設で破砕、殺菌、発酵等を経て、豚の飼料にしている。

(篠原委員) 北清掃工場の整備について、経費の額は。

(事 務 局) 基幹的設備等改良工事として、平成 2 9 年度から令和 2 年度まで、3 炉の大規模改修工事を行った。経費は約 6 8 億円。その結果、発電効率が 5 % 上昇した。

(落合委員) 1ページ「1 生ごみ・食品ロスの削減」について、コロナで家で食事する機会が増え、生ごみや食品のロスは増加していると思われる。一方、懇親会や歓送迎会が、コロナの影響で減少していたが、今後は増えると予想される。その中で、食べ残しが多く出てくると思うので、「3010運動」等の働きかけが必要と考える。

(中島委員) 1ページ「3 ごみの資源化の拡大」について、剪定枝について記載されているが、集積場に出される剪定枝が、時期にもよるがかなり多い。以前は清掃工場に持ち込む際に一定量までは無料だったが、最近是有料になってしまったことも原因にあると思う。剪定枝を無料で持ち込める場所があれば、そこに持ち込まれるのではないか。

(事務局) 一般ごみとして出される剪定枝を持ち込める場所は、財源を含め課題ととらえている。

(中島委員) 製品プラスチックについて、回収された後の資源化の流れはどうなっているのか。また、分別について、製品プラスチックも含めてリサイクルのために、わかりやすい分別をしてほしい。

(事務局) プラスチックの資源化については、収集、分別、中間処理を行い、その後資源化が図られている。また、プラスチックの分別については、市ホームページやパンフレット、メディアも含めて周知を行っていく必要があると考えている。

(中島委員) 小型家電の回収ボックスについて、現在の数と今後の予定は。

(事務局) 市内の公共施設と民間施設をあわせて、23か所に設置している。公共施設としては合同庁舎、リサイクルスクエア等。民間施設ではノジマ電気、イオン等の店舗に設置している。

(中島委員) 2ページ「5 4Rに関する情報発信や環境教育の推進」で、一般ごみに一定量資源が含まれている場合は収集せず再分別の指導を行った、とあるが、結果としてごみ置き場に置かれるごみがかなり多くなった。自治会でも管理しきれない状況になってしまったため、やり方を再検討していただきたい。

(事務局) 資源の混入が少しでも減少するための対応を、グループ内で検討していきたい。

(中島委員) 2ページ「6 ごみ処理手数料の在り方」で、直接搬入の一般ごみが約

30%減少したとあるが、今まで一定量無料だったものが有料になったために直接搬入のごみが減少し、その分がごみ集積場に出されているので、全体としてはごみは減少していないと考えている。また、有料化について、一般ごみの排出量が継続して増加する場合などを想定し、引き続き検討とあるが、増加する場合ではなくごみの量を減らすために有料化を考えていく必要があるのではないかと。

(事務局) 平成25年度から令和4年度までの市内全体の一般ごみの量については、令和2年度は、緊急事態宣言が発出され前年度比1%増加したが、他の年度については、毎年度減少している。また、有料化について、現在の基本計画では、「一般ごみの排出量が継続して増加する場合などを想定し」となっているが、委員の意見等も踏まえ、整理していきたい。

(中島委員) 2ページ「3 適正排出の推進」について、指導を強化していくという考えはないか。

(事務局) 中小事業者への戸別訪問指導については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で年間2,000件を下回った時もあったが、令和4年度は約4,000件訪問した。今年度については7,000件の訪問を目標としており、不在時にはチラシなどのポスティングも行うなど、指導強化を図っている。

(中島委員) 北清掃工場について、建て替えの話があると聞いている。地域説明会のほか、自治会連合会などにも情報提供してほしい。

(事務局) 北清掃工場は、基幹的設備等改良工事を行い、令和18年度まで稼働予定であり、令和19年度より、新たな工場を稼働していく予定である。場所については、現在の北清掃工場の道路を挟んだ反対側に橋本台環境事業所があり、この土地を候補としている。橋本地区まちづくり会議、自治会長会議で説明を行い、大沢地区の説明会を7月に行う予定である。工場建替の基本計画は令和8年度に作る予定だが、その前にパブリックコメントを行いたい。

(中島委員) 4ページ「2 エネルギーや資源の有効活用」で、貴金属の回収のために、粗大ごみの回収方法も含め、検討していく必要があると考える。また、溶融スラグについて、公共工事での道路資材などに使用とあるが、スラグの全量を利用しきれていない実態があるので、全量が利用できるような方法を検討していただきたい。

(事務局) 現在、粗大ごみの受け入れ後、金属の分別を行い売却を行っているが、金属と木製部分が一緒になっているものは分別が難しい。このような場合、焼却後に磁石で金属を集め、売却している。灰の中に金属が混ざらないような方法について、施設の設備も含め検討していきたい。溶融スラグについては、道路資材のほか、道路側溝のU字溝等コンクリート資材や、下水道工事の際に下水管を保護する砂の代替品としての活用が考えられる。民間会社と連携しながら、活用の拡大について研究していきたい。

(中島委員) 4ページ「3 収集運搬体制の整備」で、戸別収集の要望が出されているが、ごみ集積場所の管理も自治会では管理しきれないという状況があり、戸別収集しか解決策はないと考える。課題があるのは承知しているが、他市の状況を調べ、モデル地区を作りそこで検討する、など、戸別収集に向けて進めていただきたい。

(事務局) 戸別収集を行うことにより、家庭でのごみ分別の意識が高まる等のメリットがある。一方、回収費用が増加する等のデメリットもある。現在、市内でごみの集積場所が約2万か所あり、市内の世帯数が約34万3千世帯ある。このような状況の中で、実施した場合の費用や、市域が広大であること等も踏まえ、本市に適した収集体制の在り方について検討したい。

(竹田会長) 剪定枝について、チップ化する場所の確保など課題があることは承知しているが、温暖化対策の一環として、公共施設で有効活用してほしい。津久井にある「いやしの湯」では、チップをボイラーの燃料にできるように計画が進んでいる。

(竹田会長) 南清掃工場の見学の際に、最終処分場についての普及啓発も行っていただきたい。

(加賀谷委員) 先日、公民館事業で南清掃工場を見学した。工場内は綺麗で、見学した参加者からは、ごみに対する意識が変わった、という話があった。その中で、最終処分場にも触れられていた。小学校では社会の授業で、南清掃工場に見学に行くが、ぜひ大人が南清掃工場及び最終処分場を見学すべきだと思う。

(中島委員) 麻溝地区には、南清掃工場及び最終処分場があり、他の地区と比べて負担感がある。新たな処分場を現在の処分場の隣に作るとなると更に麻溝地区に集中する。埋め立ての量を極力抑えて、新たな処分場を作

らなくても済むように考えていただきたい。

(原 委 員) 前回の審議会でも話したが、容器プラについて、しっかりリサイクルされるための周知をやっていただきたい。鉄やリチウムが混入されると、火災の原因となってしまう。

戸別収集について、缶やびんなどの資源回収をすることを考えたら、収集ステーションを残す必要があると考える。市内は区によって街の形状がかなり異なっており、回収方法については検討が必要と考える。

また、集団資源回収事業については、昔のように雑誌や新聞が多く出ないため、事業者の利益にならず受けにくくなっているため、事業者に補助金などをつけていく必要があると考える。

剪定枝持ち込みの、一般の方が無料で持ち込める場所の確保というのは、実施すべきと思う。資料中、課題の欄に剪定枝についての記載がないので、入れるべきである。

3 報告

(1) 廃棄物減量等推進員を対象としたごみの減量化・資源化に関するアンケート調査の結果について、事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(藤倉委員) アンケートの対象者について、選出基準を教えてください。また、今回のアンケートをクロス集計していただきたい。例として、地区ごとに戸別収集に対する賛成や反対の分布があるのか、集計してその結果を一般廃棄物処理基本計画の見直しに反映していただきたい。

(事 務 局) 対象者のうち廃棄物減量等代表推進員については、各自治会連合会から1名、計22名選出されている。廃棄物減量等推進員については、約590名である。

(竹田会長) 廃棄物減量等代表推進員については、自治会長が兼任していることが多い。

(藤倉委員) 市に関心のある層の回答が多い、ということか。

(事 務 局) そのとおりである。

(中島委員) 前回の審議会では集計中となっていた自由意見について、様々な意見があり参考になった。是非、内容について検討していただきたい。

(原委員) 生ごみの処理について、ディスポーザーを家庭に設置し、微生物で分解させてごみの量を減らすということを行っている自治体があると聞いている。一つの処理案として、提案させていただく。

4 その他

事務局から今後のスケジュール等について説明した。

5 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		欠席
2	石川 冬子	さがみはら消費者の会		出席
3	内田 勝久	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		出席
4	大河内 由美子	麻布大学		欠席
5	近江 良一	相模原商工会議所		出席
6	落合 幸男	相模原市農業協同組合		出席
7	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
8	幸山 隆	相模原地域連合		欠席
9	篠原 直彦	公募		出席
10	須藤 みね子	さがみはらリサイクル連絡会		出席
11	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会	会 長	出席
12	中島 勝平	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
13	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
14	藤倉 まなみ	桜美林大学	職務代理者	出席
15	堀川 伸晴	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
16	山崎 勇貴	津久井地域不法投棄防止協議会		欠席
17	山田 とし子	相模女子大学		欠席
18	渡部 一浩	相模原廃棄物対策協議会		出席